

令和5年度第1回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会（WEB）

日時：2023年8月17日（木曜日）19時00分～20時00分（ZOOM）

プログラム

2023年特集テーマ①「頭頸部超音波の徹底活用」（30分（質疑含む））

「超音波機器にまつわる患者安全」

平松真理子 名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部

超音波を活用することで、医療現場に潜む様々なリスクを回避できる可能性がある。

一方で、超音波機器の安全な使い方を知らないでいると、患者に思わぬリスクを負わせてしまう可能性もある。耳鼻咽喉科・頭頸部外科医としての診療に長年携わり頭頸部超音波を専門としてきたが、その後大学病院全体の医療安全を管理する業務を務めることで、明らかにすることことができた医療安全にまつわる知見について述べるとともに、頭頸部外科診療、頭頸部超音波診断、頸部リンパ節超音波診断を行うことで回避できた医療上のリスクについて、事例を提示しながら概説した。

2023年特集テーマ②「頸部リンパ節超音波診断を極める」（30分（質疑含む））

「頸部リンパ節超音波診断の基本的知識と診断の考え方」

古川まどか 神奈川県立がんセンター頭頸部外科

頸部リンパ節の超音波診断について、正しく系統だって学ぶ場所や資料、教科書が少ないという多くの方からの意見や要望があり、今年の特集テーマを「頸部リンパ節超音波診断を極める」とし、その第一歩として頸部リンパ節超音波診断の基本的知識と診断の考え方を取り上げた。これまで、頭頸部超音波や頸部リンパ節超音波診断に関して、正しい知識がないまま、屋根瓦式に伝えられてきた間違った知識があるため、まず科学的根拠をもとに具体的な画像とその手術標本を照合させたデータをもとに、正しい知識の学習を行う場として講義を行った。

令和5年度第2回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波

日時：2023年10月5日（木曜日）19時00分～20時00分（ZOOM）

プログラム

2023年特集テーマ①「頭頸部超音波の徹底活用」

「耳鼻咽喉・頭頸部外科領域における超音波検査」

堂西良平 鳥取大学耳鼻咽喉頭頸部外科

2023年特集テーマ①「頭頸部超音波の徹底活用」として、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域における超音波の活用法について紹介し、そのノウハウとピットフォールについて提示した。超音波検査士、検査技師にとって、耳鼻咽喉科・頭頸部外科という領域はなかなかじみがなく、また医師に対し気軽に質問し議論を交わす機会が少ない領域といえる。双方

の意思疎通を図ることが今後の頭頸部超音波の発展に重要と考えられ、特に超音波が活躍できる場面を提示した。初診時の診断、治療効果判定、手術適応や術式決定、術後の経過観察が挙げられ、さらに、低侵襲手術として内視鏡手術やロボット手術が広まってきたため、術中エコーとしての活用も広がりつつある。臨床現場での超音波活用事例につき報告した。

2023 年特集テーマ②「頸部リンパ節超音波診断を極める」

「注意すべき頸部リンパ節腫脹」

吉川まどか 神奈川県立がんセンター頭頸部外科

特集「頸部リンパ節超音波診断を極める」の第 2 弾として、「注意すべき頸部リンパ節腫脹」について述べた。悪性疾患や、特殊感染症など、見逃すことができない疾患の他、ワクチン接種や自己免疫疾患による免疫異常にかかるリンパ節腫脹、悪性リンパ腫の多彩なリンパ節像や臨床経過など、診断決め手となる超音波像と臨床像について提示した。

令和 5 年度第 3 回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波

日時：2023 年 11 月 30 日（木曜日）19 時 00 分～20 時 00 分 （ZOOM）

2023 年特集テーマ①「頭頸部超音波の徹底活用」（

「唾液腺疾患における超音波検査」

吉田真夏 神奈川県立がんセンター頭頸部外科

唾液腺疾患には、炎症性疾患、唾液腺腫瘍など多彩であり、また唾液腺周囲のリンパ節腫脹との鑑別など、触診や C T, M R I といったほかの画像診断では鑑別困難であり、超音波診断の役割が非常に大きい。乳幼児や小児にも唾液腺疾患は多く見られ、放射線被ばくや、侵襲のある検査、鎮静を必要とする検査は現実的ではない場合にも、超音波診断ではほぼ必要な情報がすべて得られる。唾液腺疾患を系統的に概説し、正しい探触子操作と唾液腺の基本画像を学び、正常像、年齢的な変化、性差、各種疾患の病因、治療法と治療上の注意点なども加えながら、唾液腺超音波に関する知識を深める場となった。

2023 年特集テーマ②「頸部リンパ節超音波診断を極める」（30 分（質疑含む））

「癌治療によるリンパ節転移超音波像の変化について」

古川まどか 神奈川県立がんセンター頭頸部外科

癌のリンパ節転移は、がんの病期診断にかかり、患者の予後や治療後の障害にも深くかかわる要素である。早期の癌が進行がんに移行する一つのきっかけともいえるリンパ節転移を正しく診断すること、また、このリンパ節転移の治療効果判定を正しく、リアルタイムに行うことが、確実な癌治療と、湖岸治療による後遺症を最小限にする決め手となる。体表に近くリンパ節の超音波像の治療による変化を最も観察しやすい頸部リンパ節を対象

とし、放射線治療、殺細胞性抗がん剤、免疫チェックポイント阻害薬によるリンパ節超音波像の治療による変化、後発頸部リンパ節転移再発の超音波による早期診断につき、提示し、がん治療における頸部リンパ節転移超音波診断の役割について考察を加えた。

令和5年度第4回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会

日時：2024年2月8日（木曜日）19時00分～20時00分（ZOOM）

2023年度特集テーマ①「頭頸部超音波の徹底活用」

「輪状披裂関節の超音波画像」

國枝千嘉子（羽島市民病院 耳鼻咽喉科）

発声にかかる声帯の動きを、3Dとしてモニターする方法として、生体の動きをつかさどる披裂軟骨の動きを超音波でリアルタイムに観察することが非常に有用である。

若年者や女性では、甲状軟骨の骨化がないため、超音波で容易に披裂軟骨の運動を観察可能である。披裂軟骨に異常をきたす疾患、病態としては、反回神経麻痺、披裂軟骨脱臼、外傷による軟骨や軟骨に付着する筋・韌帯損傷、喉頭形成異常、神経変性疾患の他、心因性嗄声（失声）、痙攣性発声障害などが挙げられる。これらの疾患と披裂軟骨の動きを結びつけることで、病因の解明や治療法の選択に有用となる可能性があるため今後の研究に期待が持たれる。

2023年特集テーマ②「頸部リンパ節超音波診断を極める」

「頸部リンパ節の超音波診断」

齋藤大輔（岩手医科大学/さいとう耳鼻咽喉科（盛岡））

頸部リンパ節超音波の臨床現場での活用例について、一般外来診療におけるリンパ節疾患鑑別を即座に、非侵襲的に行うために重要なチェックポイントについて、実際の症例について例を挙げて提示した。摘出したリンパ節における病理像、血管像などに注目し、疾患によってリンパ節内で生じる病理的变化についても考察した。